



東京YMCA

2015 12月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

YMCAブランドの再生

未来を切り開くために

日本YMCA同盟中期計画 (2014-2016)

「YMCAブランドの再生」をテーマにオールジャパンYMCAの革新を目指し、専門業者と共に調査などを進めています。

「ブランド」とは、人びとがYMCAの会員になったり、寄付をしてくださる理由、つまり選ばれる理由です。このブランドを再生することによって、YMCAが、

- より多くの人には選ばれる
 - 必要としている人に知られる
 - 関わる人がより誇りと愛着を持てる
- ことを目指しています。

すでに11月から「YMCAのイメージ」調査を実施しており、2016年には他の調査結果も含めてブランドコンセプトが発表される予定です。

未来を語る YMCA

今から130年前、東京YMCA設立の構想を聞いた人々は、血湧き肉躍ったことでしょう。なぜなら、そのようなものは日本にはなく、日本の未来、そしてYMCAに

関わりうとした人々の未来を切り開くような新しい活動は日本にお

いて先駆的に他に見えないものでありましたが、それゆえ、YMCAは「新しい」という言葉が似合う団体であったのです。YMCAは未来を語

過去を語る YMCA

ところが、現代では、



〈寄稿〉中道 基夫 さん

関西学院大学神学部、同大学院博士課程前期修了。ハイデルベルグ大学留学。ドイツ・ヴュルテンベルグ州教会世界宣教チームDIMEO宣教協力牧師。2000年～関西学院大学神学部教授。神戸YMCA理事長。日本YMCA同盟理事。

「YMCAは目新しさを失い、何の団体なのか分からなくなってきたのではないか」。今、そんな危機感から全国のYMCAは、YMCAというブランドの意味を問い直し、再生しようと動き始めています。『日本YMCA同盟中期計画』推進副委員長の中道基夫氏が11月7日、東京YMCA会員協議会「ソシアスフォーラム」で、「YMCAブランドの再生」について、その内容と必要性について講演しました。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。



中道さんの基調講演の後、分団で協議をする東京YMCAの会員たち (＝2面に続く)

YMCAブランドの再生

YMCAはもはや「新しい」ものではなく、YMCAが日本に紹介した様々な活動や事業は、他の団体や企業によって展開されるようになり、そちらの方が新しさを強調し、メジャーになってしま

なっていました。YMCAは、信頼や安心を与えるものですが、やはり人々を魅了し、未来を感じさせる力は弱くなったと言わざるを得ません。日本のYMCAは、創立100年を過ぎ、過去を語り

始めた。YMCAはもはや「新しい」ものではなく、YMCAが日本に紹介した様々な活動や事業は、他の団体や企業によって展開されるようになり、そちらの方が新しさを強調し、メジャーになってしま

なっていました。YMCAは、信頼や安心を与えるものですが、やはり人々を魅了し、未来を感じさせる力は弱くなったと言わざるを得ません。日本のYMCAは、創立100年を過ぎ、過去を語り

始めた。YMCAはもはや「新しい」ものではなく、YMCAが日本に紹介した様々な活動や事業は、他の団体や企業によって展開されるようになり、そちらの方が新しさを強調し、メジャーになってしま

なっていました。YMCAは、信頼や安心を与えるものですが、やはり人々を魅了し、未来を感じさせる力は弱くなったと言わざるを得ません。日本のYMCAは、創立100年を過ぎ、過去を語り

今こそ ミッションを

このフランディングという手法を用いた日本YMCA中期計画を推進し、多様な各地のYMCAの力を一つにするためには「ミッション」が必

要です。「ミッション」とは、YMCAが何のためにある団体なのかという存在意義であり、使命です。それは特長ある活動を生み出す源であり、それが

あるからこそ人々がYMCAに参加し、寄付し、会員になっていく。つまり、YMCAは、この世に派遣された神の同労者であるという自己理解を持っています。これは、YMCAを遣わし、神ご自身が果たそうとされる使命とはいったいな

なんでしょう。それは、次の聖書の言葉に端的に表れています。神がモーセに語った「今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ」(出エジプト記3章10節)。ファラオ、エジプトとは人々を抑圧する力の象徴であり、イスラエルはその力の奴隷になっている人々を表しています。つまり、神のミッションとは、人々を抑圧し、生き残る力を削いでいる状況から、人々を解放することです。神の使命は何千年経とうと同じです。このモーセに託されたミッションは、今もYMCAに引き継がれています。それが、「日本YMCA基本原則」です。

今こそ ミッションを

今回の日本YMCA中期計画は、日本のYMCAが第2世紀を生き残り、新しい未来を語るために、避けては通れない道です。また、それはYMCAの新しいステージへとわたしたちを導いてくれる希望の道であると信じています。

もちろん、この解放のミッションは現代的に解釈しなければなりません。それぞれの現場にあてはめて解釈し直され、人々に通じるように表現し直されなければなりません。

フランディング、ミッションの明確化、オールジャパンYMCAの力の結集。この3つが1つになると、YMCAはまた未来を語る力を得ると信じています。

「ミッション」とは、YMCAが何のためにある団体なのかという存在意義であり、使命です。それは特長ある活動を生み出す源であり、それがあるからこそ人々がYMCAに参加し、寄付し、会員になっていく。つまり、YMCAは、この世に派遣された神の同労者であるという自己理解を持っています。これは、YMCAを遣わし、神ご自身が果たそうとされる使命とはいったいな

なんでしょう。それは、次の聖書の言葉に端的に表れています。神がモーセに語った「今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ」(出エジプト記3章10節)。ファラオ、エジプトとは人々を抑圧する力の象徴であり、イスラエルはその力の奴隷になっている人々を表しています。つまり、神のミッションとは、人々を抑圧し、生き残る力を削いでいる状況から、人々を解放することです。神の使命は何千年経とうと同じです。このモーセに託されたミッションは、今もYMCAに引き継がれています。それが、「日本YMCA基本原則」です。

赤三角

▼カトリックでは、主の降誕の8日以内の日曜日に「聖家族」を祝います。私の所属するプロテスタントでは、あまり

馴染みのない言葉ですが「聖家族」とは、イエス・キリストと養父ヨセフ、聖母マリアのことであり、キリスト教美術の主題の一つです。しかし興味深いことに、ヨセフは、ボッティチエリやレンブラントの絵を見て、うずくまって、寝ているのかどうかも分からないような、全く光りのあたらない男として描かれています。聖母マリアの人格に圧倒されてか、ヨセフの人物像は、重要視されていないようです。聖書では「夫ヨセフは正しい人」とされており、その黙然たる生き様には心惹かれます。天使の言葉を受け入れてマリヤと結婚し、その後は強い信仰をもって、ヘロデ大王の虐殺から逃れ、マリアと幼子イエスを連れてエジプトへの逃避行を導きました。▼「聖家族」のヨセフの立ち位置は、もしかすると、聖霊による奇跡(聖霊による受胎)の及ばない人々を代表しているのではないのでしょうか。「聖家族」の中のヨセフの存在こそ、「キリスト中心」の大切さを指し示す、東京YMCAの立ち位置ではないかと思うのです。(本部署 事務局 保坂弘志)

東京YMCAの未来を描く

会員協議会
「ソシアスフォーラム」

「ソシアス」とはラテン語で「仲間」のこと。「東京YMCA会員協議会 ソシアスフォーラム」は年に一度、会員が集まってYMCAについて学び、考え、交流する会で、今年は11月7日、山手センタ―を会場に行われ約60人が参加。関西学院大学神学部教授・中道基夫さんによる基調講演「YMCAブランドの再生」（Ⅱ1面）やユースボランティアの活動報告などに続き、「再生と創生！ 東京YMCAの未来を描く」をテーマにグループディスカッションを行ないました。また今後「会員増強キャンペーン」を行ない、現在約940人の会員を1200人にしていくことが宣言され、運営委員や職員など25人が会員増強委員として総主事から委嘱されました。会員増強委員長となった太田勝人さんは「会員増強に王道はないが、社会に役立ちたいと思っている人は多い。日ごろから努力して働きかけ、活動の輪を拡げたい」と抱負を語りました。（Ⅱ4面に「会員のご案内」を掲載）（広報室）

分団協議 (要旨抜粋)

- ＜ブランディングについて＞
- YMCAは昔より知名度も落ちてきた。伝えるべきことをしっかりアピールすることが大事。専念できるチームが必要ではないか。
 - もともと各YMCAは独立していて、上からの指示で一斉に動くような組織ではなく、ロゴの使用も徹底されてこなかった。が、各地の特性を活かしながらも、統一すべきこともある。
 - YMCAを伝えることは難しい。ミッション（使命）だけを語っても伝わらない。一人ひとりが自分の言葉で、体験や活動など物語を語っていくことが必要。各人、各地にストーリーがあるし、共通する部分もある。そういうストーリーを発信したい。

- ＜会員増強には＞
- 音訳ボランティアサークル「シジユウカラ」のような具体的な活動が必要。一緒に活動する中で、時間をかけて理解者を増やしていく。
 - 会員とスタッフが対等に話せる場、人が集まりやすい場を作る。
 - 卒業リーダーや卒園児など、Yに関わった人とのつながりをもっと大切にすべき。

- ＜活動内容、プログラム開発について＞
- いじめ、自殺などのニュースが多い中、小学校高学年から中学生くらいを対象に、自尊心を高められるような活動を開発したい。
 - 弱者の立場にたった活動など、キリスト教の名前を出さなくてもその良さが伝わるような活動が必要。
 - 使命をまっとうするためにはもっと“運動体”であるべき。
 - 指定管理は、教育や福祉の場でYMCAが必要とされているということでもあるが、やはり自主事業を見直すべき時期ではないか。
 - スタッフは日常業務で手一杯なので、意見箱を設置してアイデアを募ったり企画コンペなどをして新規プログラムを開発したい。

子育てコラム



忍び寄る健康被害

ここ数回、各園長が子どもたちが生きづらい社会環境にあることを伝えていますが、事態はもっと深刻で、「子どもの貧困」「低い子どもの予算」「小児性愛者の野放し」等、子どもが粗末にされる社会だという専門家もいます。中でも深刻なのはまた、結果が見えてこない電子機器等によ

る子どもたちの健康被害です。20代・30代の若い人に老眼のように近くがボヤけるスマホ老眼が問題になっていますが、同じようにスマホやポータブルゲームばかりやっている10代以下の子どもたちにも、今後何の影響もないわけはありません。今、スポーツの指導者の間で言われ始めているのは、子どもたちの卓球や野球などで空振りが多くなっているということです。顔を動かさずに見られる小さな画面ばかりを見ることで、両目で見ているにも関わらず、実は片方の目しか使っていない、立体的認知能力が低くなっているようです。そうする

と距離感がつかめず、階段を踏み外したり、道幅と車のスピードを計り損ねて道を渡り損ねたりするようになることが起きているそうです。何よりもスマホ等の明かりは白色光で、人が見ることのできる光線の中で網膜まで達する最もエネルギーが強い光で、太陽の光と同じものだそうです。私たちは太陽を直接見てはいけなと言われてきましたが、同じ光を日本の子どもたちは世界中のどの国民よりも見続けています。そしてその影響は眼だけでなく済む補償はどこにもありません。心砕く医者たちは「人類史上例のない人体実験だ」と警告を発しています。

スマホやパソコンの恩恵を受けている私たちはいきなりそれらを無くすることはできません。ですが、子どもの遊び相手や育児の相手をDVDやゲーム、スマホにさせ、あの時もっと制限しておけばよかったと後悔するような事態だけは避けるべきです。親として、保育士・児童館指導者として、YMCAのスタッフとして、未来を担う子どもたちの先達として、彼らの心と身体を守りたいとクリスマス月に願います。

波多 啓造
(東雲児童館・学童クラブ館長)

アイデア続々 実りある分団協議

毎年、多くを得ることができると言えるソシアスフォーラムですが、今年は特に、YMCAのことを真剣に、かつ創造的に考えている方々との交わりの中で、たくさんの方々の知恵と元気を与えていただきました。

中道先生の基調講演や、リーダーや山手学舎生の話も大変素晴らしいものですが、それは全体の記録に譲り、私は分団協議の「分団グループE」の報告をさせていただきます。

会員部運営委員

Eグループには、廣田総主事をはじめ、評議員や理事の方から私のよう

な会員、職員、リーダーまで、バラエティーに富んだメンバーが参加していましたが、そこはYMCAへの熱い思いがC.A.立場など関係なく、フラットな感覚で意見交換を行うことができました。

YMCAに集う理由は「人の魅力」だという話から始まり、「運動体であれ」という理念的な話、「音訳グループシジユウカラ」の成功に学ぶボランティアの場の創出、卒業リーダーなどへのメールマガジン配信やメディア戦略などの広報活動充実の重要性、プログラム開発の案をくみ上げた。

以前のソシアスフォーラムでは、「会員とは」をテーマにして意見を交わし、「参加会員（＝利用者）」と「担い手会員」とに分類し、会員を増やそうと呼びかけましたが、新入会員は増えずに今日まで来てしまった、というのが否めない現状だと思っています。

今回は「YMCAブランドの再生」をテーマにした中道基夫牧師の基調講演で始まりました。

世界ブランドであったフォルクスワーゲンなどの不始末が巷の話題になっていますが、なぜYMCAも今、テーマにす

ミッション（使命）の確立必須

のか。それはYMCAが、施設の維持など財政上の問題をかかえている上に、会員の勧誘をしても昔みたいに話ののってくる人はほとんどいなくなり、YMCAが世間に知られていないという危機にさらされている。そんな現実があります。

YMCAのブランドとは「YMCAの会員になる理由」「YMCAに寄付をしてくださる理由」「YMCAが選ばれる理由」であり、それは目に見えない形ではなく、人びとの頭の中にあります。そう講演されて、それに回答できない私がいら

この秋、3年半の任期満了に伴い、ニューヨーク州フロストバレーYMCAより東京YMCAへ帰任しました。

フロストバレーYMCAや赴任中に訪問した近郊のYMCAでは、会員とはプログラム会員（参加者）を示すことがほとんどでした。どのYMCAでも寄付集めに専門の職員を配置し、多くの賛同者から寄付を集め、活気のあるYMCAでありました。

ご存知のように北米YMCAは2010年から専門家の力をかりてブランドの統一化を図りまし

新鮮だった「会員協議会」

た。ロゴマークを一新し、ミッションも「青少年育成」「健康な生活」とても分かりやすく、「社会的責任」という3つのシンプルな言葉に変えて活動を展開しています。専門家によって戦略的にYMCAファンを増やす取り組みはとて興味深いものでした。

一方で理事会や委員会、永年会員のような制度は存在するものの、いそ守つていかなければならぬと思つたと話していただきました。職員とた。そんな中、帰国後すぐに行われたソシアスフォーラムに会員として、職員として参加する機会

職員

星住 秀一さん

た。ロゴマークを一新し、ミッションも「青少年育成」「健康な生活」とても分かりやすく、「社会的責任」という3つのシンプルな言葉に変えて活動を展開しています。専門家によって戦略的にYMCAファンを増やす取り組みはとて興味深いものでした。

一方で理事会や委員会、永年会員のような制度は存在するものの、いそ守つていかなければならぬと思つたと話していただきました。職員とた。そんな中、帰国後すぐに行われたソシアスフォーラムに会員として、職員として参加する機会

た一日でした。

保育園短信

■ 収穫感謝祭、手作り味噌で豚汁作り

Y M C A オリーブ保育園 (江東区)

日ごろから食育に力を入れているオリーブ保育園では11月17日、収穫感謝祭を祝うため、全園児で豚汁を作りました。クラス毎に食材を分担し、1歳児はマイタケ、2歳児はこんにゃくちぎり、4歳児は包丁をもって人参や大根を切り、5歳児はジャガイモの皮むきにも挑戦しました。3歳児はご飯のふりかけを担当。桜エビと煮干しをすりばちですって香ばしいふりかけを作りました。(=写真)



豚汁の仕上げには、園で作った手作り味噌が登場。2月当時4歳児だった園児たちが、大豆を煮た後ビニール袋に入れて足で踏んでつぶし、熟成させたもので、「買ったお味噌とは違う」「おいしい!」と園児にも保育士にも大好評でした。これからもクッキングを通して、作る楽しさ、食べる喜びをたくさん体験して欲しいと思っています。

(オリーブ保育園 興津夏子)

■ 園児が小学生と交流

Y M C A キャナルコート保育園 (江東区)

5歳児クラス「ぞう組」の園児24人は11月26日、近隣の江東区立第二辰巳小学校にお邪魔し、小学1年生との交流会を行いました。1年生が秋の工作で作ったけん玉で遊んだり、ハンカチ落としなどゲームをしたり。1年生たちは司会進行も自分たちで務め、もてなしてくれました。まもなく新入生になる園児たちは、緊張しながらも1年生の様子に興味しんしん。良き入学準備となりました。

この交流は、今年再開した「キャナルコート保育園運営委員会」の提案によって企画されたもの。委員には、在園児および卒園児の保護者や民生委員、園医、近隣保育園関係者、そして第二辰巳小学校の校長先生など、地域で子育てを担う方々が集まり、園の新規行事などを検討しています。2月にも第二辰巳小学校に行き“給食交流会”をする予定です。

これからも地域の皆様と協力しながら、共に子どもたちを育ててまいります。

(キャナルコート保育園 南宮成一)



芝浦の職員有志によるパフォーマンス

東京YMCAが運営する港区立芝浦アイランド(愛称・あいぷら)は11月8日、恒例の「あいぷらまつり」を実施。折々の雨にもかかわらず、1500人を超える参加者で大盛況でした。このおまつりは、「みんなが一つになる日」をテーマに、地域の乳幼児から高齢者までが一堂に会するイベントです。今年も地域から200人もの方々がボランティアとして運営にご協力くださり、模擬店や遊びコーナーなど43の多彩なコーナーが並びました。町会・自治会、民生・児童委員、芝浦小学校PTA・保護者、東京YMCA社会体育・保育専門学校の学生、そして日ごろ「あいぷら」をご利用いただいている高齢者や小学生など、みんなが一つと



東京YMCAチャイルドケアセンター主催による「0歳からの親と子のハーマニーコンサート」が11月14日、玉川聖学院谷口ホールで開催されました。「子どもと一緒に本物の音楽を…」という、初代室長の「夢」が、在園児の母であったピアノスト泉博子さんの協力で

実現してから8年。今年は、当日起きたパリのテロを悼むような冷たい雨にもかかわらず、約500名が来場しました。卒園児にとっては同窓会のように、保育室での愛あふれる日々を思い出す一年に一度の機会でもあります。

幕開けは、松原陸さん(実行委員/2歳児保護者 刈部力オル)ら。客席後部からの登場にハッと観客が振り返り、続いて泉貴子さんの透き通るソプラノが掛け合います。途中、保育士と保護者による歌遊びもあり、趣向をこらした演出。赤ちゃんも身を乗り出して手を叩いています。圧巻のオペラを親子で鑑賞できる貴重な機会。大きな拍手で幕を閉じました。

親と子のハーマニーコンサート

乳児親子500人オペラを鑑賞

余りの遊びコーナーに願っている町会・自治会の方々は、今年も慣れた手さばきで、焼きそば、鳥の唐揚げ、サイコロステーキ等を次々と売りさばっていました。職員が工夫して開発した20

は、メダカすくいや射的などがあり、終日長蛇の列が絶えませんでした。特設ステージでは、日ごろあいぷらを利用して子どもたちと芝浦学童クラブ小学生によるダンスや、高齢者と児童によ

る合唱(アンサンブル・ワン)、フラダンス等の熱演のほか、腕相撲(アームレスリング)やリンゴの皮の早向き競争等も盛り上がりっていました。サブライズとして、職員有志による感動のフィナーレは、アンコールの声

援が鳴りやまず、会場は興奮のつと化しました(=写真)。芝浦アイランドが開設されて9年、地域コミュニティの核として着実に根付いてきたと、あらためて実感しました。(館長 鶴清忠)

東京-NY フロストバレー便り

フロストバレーYMCAにはスタッフ主催の小委員会がいくつか存在している。その中の「ウエルネス委員会」は、スタッフの健康や生活習慣を向上していくためのイベントを実施している。これまで実施したものは「トライアスロン」、「ウォーカソン」(参加スタッフに万歩計が渡され、一定の期間歩数を報告する)、「アップル・クックオフ」(りんごを使った料理対決)などがある。

どのイベントも様々な参加の方法があり誰でも楽しめるように工夫されている。例えば「ウォーカソン」では「Walk」という言葉が入っている歌を探して紹介することで参加も可能だったり、料理対決では「審査員」として食べることで参加するスタッフもいたり、トライアスロンでは飲み物などを用意するボランティアとして参加するなど多岐に渡っている。優勝するとうれしい景品が用意されている。これらのイベントは個人で参加するのではなくチームとして参加する。チームで参加するこ



とによってスタッフ同士の良い交流と親睦の場にもなっている。私自身は2年連続でトライアスロンに参加した(=写真)。仲間と参加する楽しさと、参加に向けてトレーニングを始めるなどウエルネス委員が目指している目的は達成されている。

イベント以外にも年間を通して実施しているものもある。例えば、日焼け止めを塗る、減量しそれを6ヶ月持続する、週に1晩パソコンを見ない日を作り1年間継続するなど、継続が困難なものもリストアップされている。

YMCAのウエルネスはまずスタッフから。奉職する自分たちが心身共に健康で、健康に関心を持ち小さなことから実践していくことはとても大切なことだと感じている。(在フロストバレーYMCA 池田麻梨子)

そこでイエスは身を起して女に言われた、「女よ、みんなはどこにいるか。あなたを罰する者はなかったのか」。女は言った、「主よ、だれもごさいませぬ」。イエスは言われた、「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」。(新訳聖書ヨハネによる福音書8章10、11節)

「容赦しない」という言葉があります。自分に対して不利益になることをした人に対して赦さないという意味です。社会の中で法律を犯した人に対しても

赦す心に満ちた社会へ

すべての人を一つにしてください

任などの言葉が表すように現代社会は弱い者、悪い者に寛容でなくなりました。それどころか、弱い者を置き去りにしていく制度、考えに満ちています。障がいを持った人々、

奥様をなくされたアン・トワイヌ・レリスさん(総主事 廣田光司)

「罪のない者がまずこの罪を犯した女に石を投げなさい」と言いました。誰も石を投げずに去って行き、そのあとで「私もあなたを罰しない」と女を赦されたのです。赦す心でこの世界が満たされるよう、クリスマス夜のイエス様が誕生しました。クリスマスおめでとございます。

新自由主義、自己責任がもたらした社会は「憎しみという贈りものはあげない」とネットに投稿しました。それに比べて有志連合のトップたちの発言のなんと幼稚なことかと思えます。イエスは「罪のない者がまずこの罪を犯した女に石を投げなさい」と言いました。誰も石を投げずに去って行き、そのあとで「私もあなたを罰しない」と女を赦されたのです。赦す心でこの世界が満たされるよう、クリスマス夜のイエス様が誕生しました。クリスマスおめでとございます。